園芸科学科トマト 化学農薬ゼロ成功！

中日新聞　29年6月17日

校内などで販売

安全のため 手間かける

化学農薬を使わないトマトの栽培に取り組む生徒たち＝北方町の岐阜農林高で

同科の野菜部門で、長期越冬栽培を学習する一環で取り組んだ。昨年八月から植え付けを開始。三年生のトマト班の六人が中心となり、四千平方㍍のビニールハウス内で千二百株を栽培している。

生徒たちは、味が良く、安心して食べられるトマトを作ろうと、「化学農薬ゼロ」を研究テーマに掲げた。これまでにも、農薬を使わないトマト作りに挑戦した経験があったが、葉も実も真っ黒になるに、微生物や菌の働きで、虫や病気の広がりを防ぐ「微生物防除資材」を、週に一度散布。毎回、重さ二十㌔の噴霧器を背負い、二時間かけて、虫がつきやすい葉の裏を中心に吹き掛けた。化学農薬なら半分ほどの頻度の散布で済むが、安全な野菜を作るために手間をかけた。

収穫したトマトは、校内で販売しているほか、JAぎふの農産物直売所にも出荷している。七月初旬ごろまで収穫できる見込み。

トマト班の班長、竹中大貴君(一七)は「苦労した分、病気を抑え、大きく育てられてうれしい。やりきった感がある」と振り返った。

副班長の高井[illegible]は「今年のトマトは大好き。[illegible]がおすすめです。[illegible]せた。

平成28年8月私たちハウスに定植 1200株トマト平成29年7月まで微生物やし油で栽培★

ぜろです

ゆるきゃら

「とまとのさま」もデザイン

園芸科学科 四季折々

29.9.28